大堤沼インクルーシブ公園化計画案

宮城県仙台第三高等学校　　３班

要旨

私たちは宮城県仙台市宮城野区の鶴ケ谷・安養寺地域間に位置する大堤沼公園が公園としての十分な機能を持っておらず、地域の人々に有効活用されていないことを知り、周辺地域に高齢者施設や障がい者支援施設、学校が多くあることを踏まえて、大堤沼公園を、社会的・身体的特徴に関わらず全ての人にとって使いやすい公園、すなわちインクルーシブ公園に作り変えようと考えた。現段階では新たな公園案の簡略的なゾーニング案を作成し地域の代表の方々に提案することができた。しかし、今後は地域住民一人ひとりに寄り添った案へと改正を重ねていくことや、コスト面や地理的側面においての検証を行うことが必要となる。

キーワード：大堤沼公園，インクルーシブ公園，地域住民

Ⅰ．はじめに

大堤沼公園とは私達が在籍する仙台第三高等学校(以下仙台三高とする)に隣接する公園で、敷地内には図１のように上堤、中堤、下堤と呼ばれる３つの沼がある。面積は約 80000 ㎡。沼では白鳥や鴨の観察が行える、動植物の豊かな公園である。しかし、１日に数人が抜け道として利用する程度で、公園として大堤沼公園を利用する人はほとんどいない。また、大堤沼がある鶴ケ谷・安養寺地区は保育園や幼稚園、特別支援学校、高齢者介護施設が多くある。これらの背景から、大堤沼をインクルーシブ公園にすることができれば、大堤沼公園が多様な人々にとっての憩いの場、他者の特徴を受け入れる学びの場となるのではないかと考え、インクルーシブ公園案を制作し、周辺地域の住民や仙台市役所に提案することにした。

図１　大堤沼公園 google map より

Ⅱ．研究方法

周辺地域や公園の現状をフィールドワークや取材から調査した。そして、利用者が少ない原因と考えられる公園の短所と、公園の長所や周辺地域の特徴を把握し、それらをふまえて新たなインクルーシブ公園案の作成を行った。

ｉ）大堤沼公園の現状・短所

①出入り口が急な階段しかない

上堤・中堤間に北側南側に２つの出入り口があるが、公園内が凹地となっているため図２で分かる通り長く急な階段であり、ベビーカーや車椅子は入ることができず、高齢者だけでなく若者にとっても出入りに負担がかかる。

②立ち入れる場所が少ない

現時点で大堤沼公園は上堤・中堤間ある広場しか立ち入れる場所がなく、その場所も草刈り後以外は草が生い茂っているので、容易に歩けるのは北側と南側の出入り口をつなぐ通路のみである。

③遊具・健康器具がない

④雑草が大量に生えている

定期的に除草は行われているが、常に草が刈られた状態を維持しているわけではなく、特に夏季は広場でも図３のように背丈程の高さまで草が伸びていることもある。

⑤薄暗い

外灯は設置されているが、壊れているものもあり、夕方以降は暗くて立ち寄り難い。

⑥大量の木に囲まれている

外から中の様子が見えない。倒木もあり、景観が損なわれている。

⑦座れる場所がない

公園内には図４の汚れた古いベンチが一つあるだけで、ゆっくり休める場所がない。

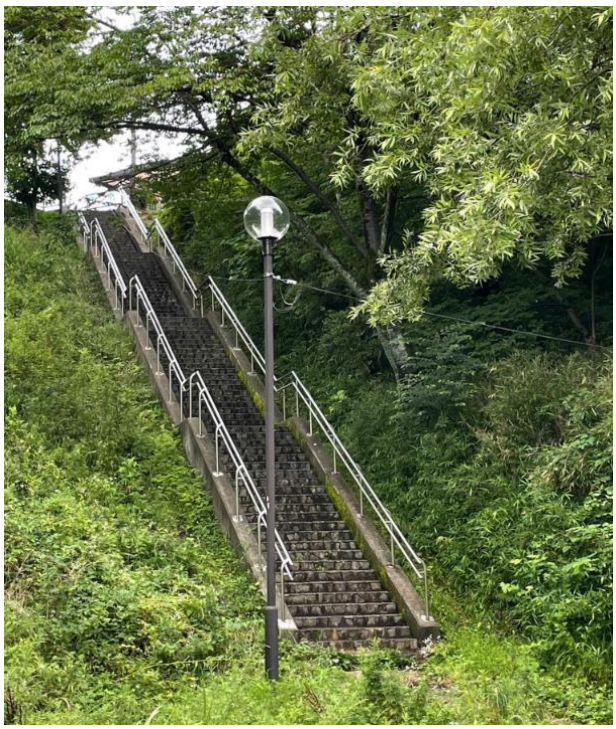

図２　北側出入り口階段

図３　夏季の伸びた雑草

図４　公園内唯一のベンチ

ⅱ）公園の長所について

公園内にある３つの沼では多くの生物が生活しており、特に、鴨や白鳥が泳ぐ姿が観察できる。また公園内ではフジやサクラといった花を確認できた。

ⅲ）周辺地域の特徴

大堤沼公園周辺の地域は障がい者支援学校や高齢者支援施設が多くある。また、小中学校が多くあり、数年前よりも生徒数が増加傾向にある。保育施設・幼稚園も多く、数年間の間で多くの一軒家や店が建ったことから若い世帯も増えてきている。また、団地住宅が多く、老若男女の人々が住んでいる。これらから年齢性別障がいの有無問わず多種多様の人々が生活していることがわかる。

Ⅲ.探究内容

次に調査結果をもとにインクルーシブ公園案の作成を行った。

ⅰ）インクルーシブ公園ゾーニング案

新たな公園の設備を区分し、まとめたゾーニング図（図５）を作成した。

図５　新公園ゾーニング案

ⅱ）各具体案についての説明

①伐採・除草
公園内は倒木や雑草等で荒れた状態であるため、整備が必要だと分かった。伐採することで、見渡しが良くなり、公園の外から中の様子が確認できるようになり安全性が上がる。また、伐採した木は遊具やベンチ等の素材として再利用する。除草については環境への負担を考慮し、除草剤などは用いず、手動での草刈りが必要となるため、町内会や周辺学校の生徒が連携して行う必要があると考えた。
②新広場の作成
中堤・下堤間の木を伐採して立ち入り可能にし、新広場を作成する。ここにはユニバーサルデザインを意識した遊具や健康器具を設置する。具体的には、図６の例のように手すりがある、道幅が広い、段差が小さい、簡単に遊べる、などといった点を考慮する。

図６ インクルーシブ遊具 日都産業株式会社
③ウォーキング･ランニングコースの作成
中堤と新広場を囲うようにコースを設置する。緑や水辺の様子を楽しみながら歩くことができる。また、舗装は適度な弾性力と摩擦抵抗性を持ち伐採した木を再利用できるという点からウッドチップ舗装を採用しようと考えた。
④ベンチ・東屋の設置
現在ベンチは劣化しているものが一つ設置されているだけなので、広場やウォーキングコースの側、木陰などにベンチや東屋を複数設置することでいつでも休憩が取れるようにする。ベンチについてはリラックスのしやすさや一度に何人も座れることを考えて、図６の健康ベンチや図７の箱型ベンチを設置することを考えている。

図７　健康ベンチ　株式会社都村製作所

図８　箱型ベンチ　株式会社風憩セコロ
⑤花植え
公園にもとから生えている種の花の数を増やすことで景観を良くし、香りでも公園を楽しめるようにする。
⑥スロープの設置
現在の出入口は階段しかないのでスロープを設置して車椅子やベビーカーも公園内に入れるようにする。ただし、スロープは図８で示したように勾配 8%以下で、高さ 75cm 毎に踏幅 150cm の水平部分を設けなければならないため、全長がおよそ 85m になるため、南側出入口から中堤に向かって公園を沿うように設置することを考えた。

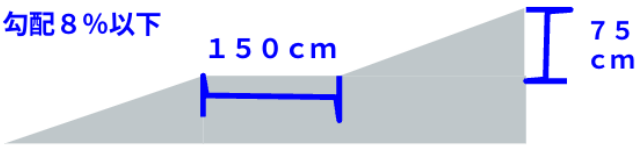

図９　スロープについて
Ⅳ.考察
大堤沼公園の利用者が少なかったのは大堤沼公園が公園として十分な機能を発揮できていなかったことが最も大きな原因であると考えられれ

る。遊べる場所や休憩できる場所がなく、さらには出入りがしづらく外から中の様子が見えず危険というのが現状である。しかし、大堤沼公園は３つの沼が敷地内にあり、豊かな動植物が確認できるなどといった他の公園にはない長所を持っているため、そういった点を上手く利用し、現状から把握できた課題を解決できれば、利用者は集めることができるだろう。また、高齢者や子ども、障がいを持った人々が多く暮らしているという周辺地域の特徴から社会的、身体的特徴に関わらず誰にとっても利用しやすいインクルーシブ公園は地域にとって非常に需要が高いと考えれる。自然に触れ合えるという公園そのものの長所とインクルーシブ公園の特徴をかけあわせることで、SDGs を意識した、現代に必要な公園となるだろう。

Ⅴ.まとめ

この公園案が実現したら、動植物の観察を通して、人々の自然への興味や自然への関心が高まることが期待できる。また、公園を活用してラジオ体操や除草ボランティアといったイベントを行うことで、地域の繋がりが強くなりまちの活性化が見込める。さらに、この公園案は SDGs と強い結びつきを持っており、公園を利用する中で人々が公園の工夫を知り、SDGs についての理解を深め、SDGs を意識した行動のきっかけとなることが望める。また、インクルーシブ公園はまだ実例が少なく、さらに高校生が考えた案として話題性があるので、世の中にインクルーシブ公園を広めるきっかけとなると考えている。SDGs 実現の一歩として必ず実現させたい案である。

参考文献

国土交通省　都市公園の移動円滑化整備ガイドライン【改訂第２版】
日本公園施設業協会　遊具の安全に関する基準
仙台市ひとにやさしいまちづくり条例　施設整備マニュアル
株式会社都村製作所　健康遊具一覧
株式会社風憩セコロ　ベンチ製品情報
日都産業株式会社　インクルーシブ遊具一覧
https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001473665.pdf
https://www.jpfa.or.jp/activity/kijyun/
https://www.city.sendai.jp/chiikifukushi/kurashi/kenkotofukushi/shogai/kyose/barrier-free/manual.html
https://www.tsumura-f.co.jp/play/choi/wdt168.html
https://fukei.co.jp/product/bench/
http://nitto-sg.co.jp/product/play/inclusive/

取材協力
神戸市役所建設局公園部計画課
まるっとつるがや
鶴ケ谷連合町内会